

様式

該当するもの以外は二重線で消してください。

変更届出の場合、変更部分について、別紙に**変更前**及び**変更後**の内容を対照させて記載してください。水銀排出施設設置 ~~(使用、変更)~~ 届出書

年 月 日

(宛先)
川口市長

法人の場合、本社の名称、住所、代表者の氏名を記載してください。

提出日を記載してください。

該当するもの以外は二重線で消してください。

出者

氏名又は名称及び住所
並びに法人にあつては
その代表者の氏名〒●●●●-●●●●
埼玉県川口市●●町●-△-□
株式会社○○
代表取締役 ○○ ○○大気汚染防止法第18条の28第1項 ~~(第18条の29第1項、第18条の30第1項)~~ の規定により、水銀排出施設について、次のとおり届け出ます。

水銀排出施設を設置する工場又は事業場の名称を記載してください。

工場又は事業場の名称	株式会社○○ 川口工場	※整理番号	
工場又は事業場の所在地	川口市●●町●-△-□	施設の項番号（大気汚染防止法施行令別表第3の3参照）及び種類（名称）を記載してください。 複数当てはまる場合は、主たる目的のものを記入します。 ばい煙発生施設の届出と一致しない場合もあります。 （主たる目的ではないが、水銀排出施設に該当する事業を行っている場合も届出が必要です）	
水銀排出施設の種類	1 石炭ボイラー		
水銀排出施設の構造	別紙1のとおり。	※備考	
水銀排出施設の使用の方法	別紙2のとおり。		
水銀等の処理の方法	別紙3のとおり。		
参考事項			

- 備考 1 水銀排出施設の種類の欄には、大気汚染防止法施行規則（以下「施行規則」という。）別表第3の3に掲げる項番号及び名称を記載すること。
- 2 ※印の欄には、記載しないこと。
- 3 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
- 4 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格A4とすること。
- 5 参考事項の欄に、施行規則様式第1による届出年月日を記載する場合であって、都道府県知事又は大気汚染防止法施行令第13条に規定する市の長が別紙1～3の全部又は一部を添付することを要しないと認めるときは、別紙1～3の全部又は一部を省略することができる。

別紙 1

水銀排出施設の構造

工場又は事業場における施設番号		1	
名 称 及 び 型 式		循環流動層ボイラー ABC型	
設 置 年 月 日		年 月 日	年 月 日
着 手 予 定 年 月 日		令和●年 ● 月 ● 日	年 月 日
使 用 開 始 予 定 年 月 日		令和●年 ● 月 ● 日	年 月 日
規 模	伝 熱 面 積 (m ²)		施行規則別表第3の3の中欄に規定する項目のいずれかを記載します。ただし、石炭ボイラーは、燃料燃焼能力欄の記入は必須です。 ⇒10万L/hで排出基準が異なります。 水銀排出施設の構造概要図を添付してください。
	燃 料 の 燃 焼 能 力 (重油換算 L/h)	22,000L/h	
	原 料 の 処 理 能 力 (t/h)		
	火格子面積又は羽口面断面積 (m ²)		
	変圧器の定格容量 (kVA)		
	焼 却 能 力 (kg/h)		

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 規模の欄には、大気汚染防止法施行規則別表第3の3の中欄に規定する項目について記載すること。
- 3 水銀排出施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本産業規格A4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。ただし、都道府県知事又は大気汚染防止法施行令第13条に規定する市の長が構造概要図を添付することを要しないと認めるときは、当該概要図の添付を省略することができる。

別紙2

水銀排出施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号		1			
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	0時～24時 6時間/回 1回/日 20日/月		時～時 時間/回 回/日 日/月	
	季節変動	無			
原材料 （水銀等の排出に影響のあるものに限る。）	種類				
	使用割合				
	原材料中の水銀等含有割合				
	1日の使用量				
燃料 （水銀等の排出に影響のあるものに限る。）	種類	石炭（瀝青炭）		代表値や平均値を記載してください。	
	燃料中の水銀等の含有割合	0.01 mg/kg			
	通常の使用量	500 t/d			
	混焼割合	100 %			
排出ガス量（m ³ /h）		湿り	最大 340,000 通常 315,000	最大	通常
		乾き	最大 280,000 通常 260,000	最大	通常
排出ガス中の酸素濃度（%）		6.3%		乾きガス中の濃度（平均的な濃度）です。水銀等の処理施設がある場合、処理後の濃度を記載します。 設置の届出の時点で実測値が得られない場合、設計値等でも構いません。（ただし、定期測定結果と大きく異なる場合、変更届の提出が必要です。）	
水銀濃度 （μg/m ³ ）	全水銀	0.34 μg/m ³			
	ガス状水銀	0.3 μg/m ³			
	粒子状水銀	0.04 μg/m ³			
参考事項					

- 備考 1 排出ガス量については、温度が零度であつて圧力が1気圧の「標準状態」という。）における量に、水銀濃度については、標準状態における1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとする。
- 2 水銀濃度は、乾きガス中の濃度とし、平常時の平均的な濃度を記載すること。
- 3 水銀濃度は、水銀等の処理施設がある場合には、処理後の濃度とすること。
- 4 参考事項の欄には、水銀等の排出状況に著しい変動がある施設についての一工程の排出量の変動の状況、水銀等の排出のために採っている方法等を記載すること。

別紙2

水銀排出施設の使用の方法

工場又は事業場における施設番号		1			
使用状況	1日の使用時間 及び月使用日数等	0時～24時 6時間/回1回/日20日/月		時～時 時間/回 回/日 日/月	
	季節変動	無			
原材料 (水銀等の排出に 影響のあるものに 限る。)	種類	廃プラ、廃油、木くず、汚泥		代表値や平均値を記載してください。幅記載することでも差し支えありません。 梱包された状態での処理が求められる感染性廃棄物など事業者において水銀含有量の測定が不可能な場合は、空欄でも差し支えありません。	
	使用割合	廃プラ、廃油、木くず、汚泥 = 3 : 3 : 1 : 3			
	原材料中の水銀等 含有割合	廃プラ : 0.2 mg/kg 廃油 : 0.01 mg/kg 木くず : 0.3 mg/kg 汚泥 : 0.02 mg/kg			
	1日の使用量	150 t/d			
燃料 (水銀等の排出に 影響のあるものに 限る。)	種類				
	燃料中の水銀等の 含有割合				
	通常の使用量				
	混焼割合				
排出ガス量 (m ³ /h)		湿り	最大 340,000 通常 315,000	最大	通常
		乾き	最大 280,000 通常 260,000	最大	通常
排出ガス中の酸素濃度 (%)		6.3%			
水銀濃度 (μg/m ³)	全水銀	0.34 μg/m ³		乾きガス中の濃度（平均的な濃度）です。水銀等の処理施設がある場合、処理後の濃度を記載します。 設置の届出の時点で実測値が得られない場合、設計値等でも構いません。 (ただし、定期測定結果と大きく異なる場合、変更届の提出が必要です。)	
	ガス状水銀	0.3 μg/m ³			
	粒子状水銀	0.04 μg/m ³			
参考事項					

- 備考 1 排出ガス量については、温度が零度であつて圧力が1気圧の「標準状態」という。)における量に、水銀濃度については、標準状態における1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとする。
- 2 水銀濃度は、乾きガス中の濃度とし、平常時の平均的な濃度を記載すること。
- 3 水銀濃度は、水銀等の処理施設がある場合には、処理後の濃度とすること。
- 4 参考事項の欄には、水銀等の排出状況に著しい変動がある施設についての一工程の排出量の変動の状況、水銀等の排出のために採っている方法等を記載すること。

水銀等の処理の方法

水銀等の処理施設の工場又は事業場における施設番号			系統 1		水銀等の大気排出抑制に効果があると考えられる排出ガス処理設備について記載します。 (例：電気集じん機、スクラバー) 水銀等の処理施設の構造図及びその主要寸法を記入した概要図を添付してください。		
処理に係る水銀排出施設の工場又は事業場における施設番号			1				
水銀等の処理施設の種類、名称及び型式			ろ過集じん機 BBB型				
設置年月日			年月日		設置届出→着手予定年月日 使用開始予定年月日 使用届出→設置年月日 変更届出→設置年月日 着手予定年月日 使用開始年月日		
着手予定年月日			令和●年 ●月 ●日				
使用開始予定年月日			令和●年 ●月 ●日				
処理能力	排出ガス量 (m ³ /h)	湿り	最大 340,000 通常 315,000		をそれぞれ記載してください		
		乾き	最大 280,000 通常 260,000				
	排出ガス温度 (℃)	処理前	160℃				
		処理後	145℃				
	排出ガス中の酸素濃度 (%)		6.3%				
	水銀濃度 (μg/m ³)	全水銀	処理前	3.8 μg/m ³		施設の構造上の理由などにより測定が不可能な場合においては、「処理前」「補修効率」の欄は空欄とします。 既存施設で水銀濃度の測定実績が無い場合は、「処理後」欄は空欄でも構いません。ただし、施行後の定期測定結果を踏まえ、変更届の提出が必要です。	
			処理後	0.34 μg/m ³			
		ガス状水銀	処理前	3.0 μg/m ³			
			処理後	0.3 μg/m ³			
		粒子状水銀	処理前	0.8 μg/m ³			
処理後			0.04 μg/m ³				
捕集効率 (%)	全水銀		91%				
	ガス状水銀		90%				
	粒子状水銀		95%				
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等		0 時～ 24 時 6時間/回 1 回/日 20 日/月		時～ 時 時間/回 回/日 日/月		
	季節変動		無				

備考 1 水銀排出施設において発生する水銀等を排出口から大気中に排出する前に処理するための施設（集じん機等）について、記載すること。

2 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。

3 排出ガス量については、温度が零度であつて圧力が1気圧の状態（この項において「標準状態」という。）における量に、水銀濃度については、標準状態における排出ガス1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとする。

4 水銀濃度は、乾きガス中の濃度とすること。

5 水銀等の処理施設の構造図及びその主要寸法を記入した概要図を添付すること。ただし、都道府県知事又は大気汚染防止法施行令第13条に規定する市の長が当該構造図及び概要図を添付することを要しないと認めるときは、当該構造図及び概要図の添付を省略することができる。